

令和4年度

第12回

子ども議会

みんなが住み続けたい
千葉市にするために

「みんなが住み続けたい千葉市にするために」をテーマに、小学校5、6年生の子ども議会議員が6グループに分かれ提案や質問を行いました。

今年度は、多くのグループが学校で配付された一人一台タブレットPC（ギガタブ）を活用し、提案に向けた資料づくりや発表の準備をしました。また、第3回学習会では、提案内容に関わる市の担当者とオンラインでつなぎ、市で行っている事業について質問したり、提案に関わるアドバイスをもらったりしました。子ども議会当日は、自分たちの提案や質問がわかりやすく伝えられるように様々な資料を提示し、工夫して発表することができました。

1 開催の目的

- 本市の将来を担う子どもたちが、本市の現状と課題について話し合い、「市民一人一人がいきいきと幸せに暮らせる街づくり」に向けた具体的な提案や質問を行う中で、千葉市民としての意識を高める。
- 子どもの目線に立った提案や意見を市政に生かす。

2 開催日時 令和4年7月26日（火）9：00～12：00

3 開催場所 千葉市議会本会議場

4 出席者

(1) 子ども議会議員33人（公募による市内の小学5、6年生）

ファシリテータ役市内中学生8人

(2) 市政担当者

神谷市長、大木副市長、青柳副市長、大野こども未来局長、磯野教育長、宮本教育次長

(3) 市議会議員

川村議長、森山副議長、田畑教育未来委員長、伊藤教育未来副委員長



5 内 容

(1) 学習会 ～子ども議会開催に向けて～

第1回のオンライン学習会では、市長から本市の現状や取組、課題についての話を聞いた後、市長に質問したり、グループで自分の考えを伝えたりしながら、子ども議会で提案する内容を考えました。

第3回学習会では、提案に関わる市の担当者とオンラインでつなぎ、直接話をするこゝで、提案内容を具体的に検討しました。



＜グループで提案内容についての協議＞



＜神谷市長講話「千葉市の現在と未来について」＞



＜市の担当者とのオンライン学習＞

(2) 子ども議会当日

子ども議会議員はグループごとに、自分たちの思いが伝わるように工夫しながら、提案や質問を行いました。



＜プロジェクターで資料を示して提案＞



＜提案する子ども議会議員＞



＜子ども議会の運営をする中学生のファシリテータ＞



＜市長の答弁を聞く子ども議会議員＞

(3) 提案・質問の内容

①「環境・自然プロジェクト」グループ

- ◇VRやARなどを使った理想の公園づくりを提案します。
- ◇公園の落ち葉を使ったバイオマス発電を提案します。
- ◇公園に災害時の避難所としての機能と、災害について学べる学習施設としての機能を持たせることを提案します。



○VRやARの空間の中で、理想の公園について、多くの市民の皆さんが楽しく意見を出し合うという提案は、大変魅力的なものだと思います。今のデジタル技術をまちづくりに活かして、住民参加で理解を深め合意形成をしていくことができるよう、千葉市でも、VRやARなどの技術の活用について具体的に検討していきたいと思います。

○一見「ごみ」や「廃棄物」のように思われるものの中に新しい価値を見出すという考え方は、資源循環、環境保全の観点から非常に重要な視点だと考えております。千葉市では、公園等から出る木の枝や葉等を再資源化施設で加工して、バイオマスエネルギーとして活用する燃料チップや家畜の寝床に敷く敷料にする取組を進めています。まだ他にも新たな価値を見出せるものもあるかもしれませんので、こういった視点で、気づきをもって頂けることを期待しています。

○小さなお子さんから高齢者の方々まで、多くの方が利用できる身近な公園で、楽しみながら防災について学べるという皆さんの提案は、防災意識を高める上で大変良いアイデアだと思います。公園と公園をインターネットでつなげて災害時の情報を収集できるようにするこのようなアイデアとともに、今後の公園づくりの参考とさせていただきます。

②「都市・交通プロジェクト」グループ

- ◇道路を利用する人の安全に対する意識や、自転車の乗り方のマナー向上を図ることで、安全・安心な千葉市にするために、SNSを使った広報活動や、既存のイベントを活用した自転車の乗り方講座を開くことを提案します。
- ◇湾岸部の千葉港、蘇我、海浜幕張を水上バスで繋ぎ、千葉市の名所を巡る観光バスのコースを設定することで、市外からの観光客を増やし、千葉市のよさを広めることを提案します。



○SNSを使った広報活動は、一人ひとりに直接情報をお届けできる効果的な方法だと思います。SNSを活用した発信を積極的に行っていきたいと考えています。また、既存のイベントや人が多く集まる場所で効果的にPRをしていくために、自転車関連のブースを設置したり、乗り方に関する広報活動を行ったりしていくなど、今後も安全に対する意識を高め、自転車の乗り方のマナーが向上するよう、積極的に取り組んでいきます。

○湾岸部を水上バスでつなぎ、そこを起点として千葉市の名所を巡る観光バスのコースを設定するという提案が実現すれば、本市の魅力発信と、市内外からの集客につながるものだと思います。また、特典をつけて、ある観光スポットを訪れた方に、他のスポットも回っていただくという提案は、観光を活性化させるとても重要な考え方で、とてもよい視点をいただきました。他にも、テーマ性をもってコースを設定したり、グッズをプレゼントしたり、いろいろなアイデアがありましたので、参考にさせていただきます。港湾部を起点として市内の名所を巡る観光ルートの設定というのを、船やバスの事業者、小売店、それから飲食店など様々な関係者とよく連携調整していかなければならないものなので、どのような形で実現できるのか今後検討を進めていきたいと考えています。

③「文化・施設プロジェクト」グループ

◇千葉市の公園を、小さな子どもからお年寄りまでの世代の人にとっても楽しく安全に、憩いの場として利用できる、魅力的な場所にすることを提案します。



○公園に花を増やすことについては、今までも地域の方々のご協力を頂いて進めており、種を収穫して次の年に咲かせていく取組も行われています。多くの市民の方が参加していただけるように市としてもこのような活動を広げていきたいと思っております。また、公園の樹木について、ヤマモモなど食べることを前提にした非常に新鮮な提案がありました。今の千葉市内の公園では、常緑樹と落葉樹も組み合わせて季節ごとに楽しんでいただけるような公園づくりをしております。今日いただいた提案も踏まえながら今後の樹木の配置を検討していきます。公園での健康づくりができる施設の整備については、現在、安全に利用できることを第一にしております。子ども用の遊具、大人用の健康づくりの器具を分けて設置しています。一緒に使うということがどこまで可能なのか、具体的に検討していきたいと思っております。公園の情報の発信については、千葉市のホームページを見直し、最新の情報や公園の魅力が伝わるように改善していきたいと思っております。また、有名人の力を借りて公園のPRをするという提案をいただきました。そのようなアイデアを含め千葉市内の公園の魅力を発信する方法について検討していきます。公園は多くの方にとって憩いの場であり、千葉市の魅力の一つです。これからも様々な方が使いやすい公園になるように計画していきたいと思っております。

④「ごみ問題プロジェクト」グループ

- ◇ごみ問題に対する市民の意識を高めるため、きぼーるでごみ問題に対する取組の発表コーナーを作ることを提案します。
- ◇学校での委員会活動を活用したり、学校へ配付するチラシを作ったりすることを提案します。



○きぼーるで発表コーナーを作ることについては、市民の皆さんにごみ問題について広くお知らせする大変有効な場所であると思っております。現在、市としても周知啓発活動を行っておりますが、更に多くの方に知っていただく一番効果的な方法を検討していきます。また「ちばレポ」については、現在、多くの方に登録を頂いており、好評をいただいております。幅広い分野で活用可能であり、ごみ問題についても意識を高めるきっかけの一つになる重要なツールだと考えています。様々な年代の方に使っていただくために、きぼーるの中で「ちばレポ」のチラシを置くことについて、検討していきます。

○提案いただいた、今よりもきれいな安全なまちにしていくために、自分たちがまず学校でできることをやってみようということが素晴らしいと思っております。各学校での取組が広がっていけば一人ひとりの意識が変わっていくと思っております。環境については、持続可能な社会づくりに取り組む必要があるため、各学校で、各教科や総合的な学習の時間等で環境やごみ問題についての学習を深めていただければと思います。また委員会活動で取り組んでいる学校があるとのことですが、さらに、児童会等を通していろいろな学校と情報交換をしていただければと思います。皆さんから提案があったように、皆さんが住みやすいまち、そしてきれいなまちづくりに教育委員会としても取り組んでいきます。

⑤ 「健康・福祉プロジェクト」グループ

- ◇「どこでもこどもカフェ」の紹介動画や利用したレポート動画等を作成し、パンフレットにQRコードを載せることを提案します。
- ◇千葉市のユニバーサルデザイン化を進め、誰もが便利で暮らしやすい町になるように、「ちばユニ公式LINE」を作ることを提案します。



- 「どこでもこどもカフェ」は子どもたちが安心して気軽に利用してもらう場所であることから、多くの子どもたちに知ってもらい、利用しようという気持ちになってもらうことがとても大切だと考えています。パンフレットにQRコードを載せることについては、実現する方向で具体的に検討したいと思います。まず、それぞれの「どこでもこどもカフェ」を実施している方々に皆さんのアイデアを伝え、どのような動画が作成できるのか、また、子どものイベントを開催できるかできないか等について相談していきます。
- ユニバーサルデザインのまちづくりを進めていくためには、実際の利用者となるご高齢の方や様々な障害のある方の意見を伺うことが必要です。市民の皆さんから意見を聞く方法として意見交換会というのをよく行っていますが、意見交換会に来られない方もおられます。そのような場合に、多くの方から意見を届けて頂ける「ちばユニ公式Line」はとて面白いアイデアだと思います。また、市の情報を障害のある方にしっかりとお届けしていくために点字の計画書やホームページの音声読み上げに対応できるような環境も作る必要があると考えていて、様々な方との意見交換を通じてまちづくりをしていくためにICT等のテクノロジーを積極的に使ったまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。

⑥ 「地産・地消プロジェクト」グループ

- ◇千葉市産の食材を使用した給食やお弁当を食べてもらうことを提案します。
- ◇子どもたちへの学校給食時の校内放送等の活用と大人に向けた「地産地消」のピーアール広告を出すことを提案します。



- 千葉市は地産地消の推進に力を入れております。生産者である農家の方、消費者である私たち双方にとって地産地消は大きなメリットです。給食では、地元で採れた食材を使うということを基本にしております。例えば学校給食で提供されるご飯は、全て千葉県産になっています。またパンについては千葉県産の小麦粉や米粉が使われています。それから、お弁当で地産地消をPRすると効果があるのではないかというご意見を頂きました。こちらについては製造販売を行う事業者と相談して、どのような形で実現できるか検討させて頂きたいと思っています。
- 地産地消を進めるにあたり、地域に素敵な食材があるということを知ることがスタートになりますので、これをアピールするという提案はとても素晴らしいと思います。まず、給食の時間を活用したアピールについては、学校給食に地場産物を取り入れたことを伝える校内放送の原稿や家庭に向けた資料を学校に配布しており、今後も継続していきたいと考えております。次に、毎日目にする給食の食器に市内産食材のイラストを描くという提案は、とても面白いアイデアだと思います。今後、実施可能か検討していきたいと思っています。大人向けにアピールすることについては、これまで千葉都市モノレールの千葉駅とJRの千葉駅をつなぐ連絡通路に千葉市産の農産物等のPRポスターを掲示していますが、今後もポスターでのアピールに加えて、駅で地産地消のイベントを行うなど、多くの方々へのアピールを工夫したいと考えております。

6 神谷市長の講評

「子ども議会」は、千葉市の未来を担う皆さんが、「ここで育ちたいと思うまち『ちば』の実現」に向け、千葉市の現状を知り、課題について話し合い、その成果を市政へ提案することで、皆さん自身の力で、魅力的な“まち”にしていこうという意識を高めてもらうことを目的としています。

本日は、皆さんが事前に調べたデータに基づいて街の課題を見つけ、具体的に提案してくれたと思います。特にVRなどの新しい技術や「ちばレポ」のさらなる活用など、これまでにない視点で社会の動きを捉えた提案でした。我々では気付かない視点で、数々の提案をいただきましたので、可能な限り市政に具体的に反映していきたいと思います。今日の発表のグループは、同じ学校の仲間ではなく、違う学校の仲間と協力しながら準備をしてきたと思います。普段の学校生活と、子ども議会の取組を両立していただきました。この取組がよい経験になったと感じてもらえたら大変嬉しく思います。また、中学生の皆さんもファシリテータとして協力していただきました。子ども議会へのサポートに心から感謝いたします。皆さんの多くは子ども議会議員としての経験を生かして参加していただいたと聞いています。市政に参画してみたいという思いをもっていることを、非常に頼もしく思います。保護者の皆様、本事業へのご理解とご協力に感謝申し上げます。本市では、「子どもの参画」を重視しており、社会のしくみ、職業、経済のしくみなどをさせていただきキャリア教育にも力を入れています。こういった経験を多くの子どもたちにしてもらって、学校や地域に帰っても様々な活動に積極的に参加し、自分の意見をしっかり持てるようになってもらえればと思います。社会は、人口減少やIoTやAI等先端テクノロジーの進展など、大きな変化の中にあります。このような中にあっても千葉市の子どもたちが将来自分の意志で活躍していける大人に成長できるようにできる限りの教育活動、子育て支援事業を展開していきたいと思っておりますので、今後ともご理解とご協力をお願いいたします。この市議会議場では今の千葉市に必要なことを議論して検討しています。皆さんにも引き続き千葉市の取組に注目していただいて、市政への関心を高めていただきたいと思います。素晴らしい提案をありがとうございました。

7 子ども議会議員の声から

※一部を抜粋しています

自分が住んでいる千葉市について深く考えるきっかけになり、今までよりも千葉市のことがもっと好きになりました。議場で市長さんに発表できたことがとてもよい経験になりました。

子ども議会に参加して、自分だけでなく家族も市政に対する関心が高まりました。住んでいる場所や人々により状況が異なるので、一律な取組では問題解決にならないことを学びました。

8 提案の実現に向けて

こども・若者のカワークショップ 「ごみ問題プロジェクト」



< イベントに向けた話し合い > < ごみのポイ捨ての実態調査 >

「ごみ問題プロジェクト」グループから提案された「きばーるでのごみ問題周知イベントの開催」を受け、こども・若者のカワークショップでは、市内の小中学生14名がイベント実施に向けて活動しています。千葉市のごみ問題や対策について調べたことを周知するため、双六やクイズを作り、遊びながらごみ問題を学べるようにしたり、ごみ問題改善のために「ちばレポ」の周知をしたりする予定です。